

施策評価調書(29年度実績)

施策コード - 2 - (1)

政策体系	施策名	芸術文化の創造	所管部局名	企画振興部	長期総合計画頁	149
	政策名	芸術文化による創造県おいたの推進	関係部局名	企画振興部、国民文化祭・障害者芸術文化祭局、教育庁		

【 . 主な取り組み】

取組				
取組項目	多彩で優れた芸術文化に触れる機会の提供	県立美術館における鑑賞・創作機会の提供	県民参加による芸術文化活動の推進と芸術文化を創造し支える人づくり	次代の芸術文化の担い手づくり

【 . 目標指標】

指 標	関連する取組	基準値		29年度			31年度	36年度	目標達成度(%)										
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125						
県立美術館入場者数(万人)		-	-	50	65	130.0%	50	50											

【 . 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
達成	多様なジャンルに挑戦する企画展「北大路魯山人展」「イサム・ノグチ展」、集客力のある企画展「ジブリの大博覧会」とバランス良く企画展を実施した結果、県立美術館入場者数は過去最高の64万8223人となった。中でも、「ジブリの大博覧会」の入場者数は19万4564人に達し、県内で開かれた展覧会としては昭和41年の「松方コレクション展」を抜いて、最高入場者数を記録した。	達成

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・別府アルゲリッチ音楽祭では、アルゲリッチと小澤征爾氏の共演等により、国内外に対して、最高レベルの芸術イベントの情報を発信できた。 ・大分アジア彫刻展では、県立美術館等で実施した紹介展の開催等により、優れた芸術文化の鑑賞機会を提供できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館の「ジブリの大博覧会」がH29年度の展覧会入場者数で全国27位(出典:art annual online)となったほか、「イサム・ノグチ」展が美術館連絡協議会2017年美連協カタログ論文賞「優秀カタログ賞」を受賞した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・別府での個展形式の芸術祭「西野達in別府」が評価され、招聘アーティストの西野達氏がH29年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。 ・国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の1年前イベントを実施し、45,000人の観客を動員した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく移転オープンした埋蔵文化財センターでの歴史体験学習を通して、児童生徒等に歴史文化を体験する機会を提供することができた。(歴史体験学習館の利用者数:2,318人)

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	別府アルゲリッチ音楽祭開催事業	38,000	A	継続・見直し	26
	大分アジア彫刻展	8,900	C	継続・見直し	27
	国民文化祭開催準備事業	358,053	A	継続・見直し	245
	芸術文化ゾーン拠点創出事業	90,000	A	継続・見直し	29
	創造県おおいた推進事業	74,272	A	継続・見直し	28
	豊の国埋蔵文化財魅力発信事業	24,070	A	終了	268

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>大分県文化振興県民会議(H29.9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価するうえで、目標指標である人数(美術館の来館者数)はとても大切なことだが、それだけになっても困る。先進的な取組も含め、バランスがとても大切だと思う。 第6回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H29.7) ・県立美術館は最近マンネリ化している気がする。知的好奇心をくすぐるような企画をしてほしい。 	<p>大分県文化振興県民会議(H29.9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分では来年の国民文化祭の時に日本国内、プラス海外までも目立つような情報発信をして、2019年のラグビーワールドカップの時には大分に長期に泊まるという人たちを増やしていく流れをつくってほしい。 ・せっかく国民文化祭を行うので、毎年やっているイベントだけではなく、それぞれの団体で新しい視点を取り入れてやっていただきたい。
--	--

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館では、「五感で楽しむことのできる美術館」「自分の家のリビングと思える美術館」「県民とともに成長する美術館」のコンセプトのもと、入場者数の目標達成に向けて、引き続き多様なジャンルに挑戦する企画展と集客力のある企画展をバランス良く実施する。 ・今後も引き続き、県内各地において多彩で質の高い芸術文化活動が行われるよう、優れた芸術文化を鑑賞し、参加し、創造することができる環境整備の充実を図るとともに、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育むために、若者や子ども達の豊かな感性や創造力を育成する機会を充実する。 ・「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」を成功させるとともに、「次代の芸術文化を担う人材、地域力の育成」「カルチャーツーリズムの推進」というレガシーを創出する。